

《単位互換提供科目詳細（シラバス）》

* 科目 No. 2905

科目概要記入欄

1. 開設大学	島根県立大学		開催 方法	□対面（—————）	
				□オンライン（同時・録画・資料提示）	
				■その他（未定）	
	正式科目名 副題	コミュニティ政策		配当年次	2・3
	学問分野	番号	27	名称	社会科学系 その他
3. 担当教員名	杉岡 秀紀				
4. 単位数	2 単位		5. 開講学期	前期集中	
6. 開講期間 曜日・時間	2022 年 9 月 ※調整中 曜日 : ~ :				
7. 基礎知識の有無	2. 「基礎知識を必要としない科目」				
8. 募集人数	5		9. 選考方法	書類選考	
10. 科目内容・ 授業計画	<p>皆さんの地域のコミュニティは活性化していますか？少子高齢化、人間関係の疎遠化、生活形態の多様化等によって、地域コミュニティは多くの課題を抱えています。これらの課題を解決していくためには、どのようなコミュニティ政策が必要でしょうか？本講義では、皆さんと共に、多様な視点から、地域内のコミュニティのあり方について考察していきます。可能であれば、講義形式だけでなく、グループワークも取り入れながら進めます。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ政策についての基礎的な知識を理解し、学んだことを自分の言葉で人に説明をすることができる。 ・ファシリテーターの重要性を理解し、講義で身につけたファシリテートスキルをワークショップなど現場の中で使うことができる。 <p>【授業の内容】</p> <p>第1回：ガイダンス（自己紹介、講義の概要、コミュニティとは何か） 第2回：コミュニティと自治～法と条例～ 第3回：コミュニティと分権～地方分権・地域主権～ 第4回：コミュニティと公共～市民参加・協働～ 第5回：コミュニティと人口減少～地域創生・関係人口～ 第6回：コミュニティと地縁組織～自治会・町内会、地域運営組織～ 第7回：コミュニティとボランティア～NPO・プロボノ～ 第8回：コミュニティと社会企業～ソーシャルビジネスと社会企業家～ 第9回：コミュニティと合意形成～フューチャーセンター～ 第10回：コミュニティと人材～人材育成と研修～ 第11回：コミュニティと大学～地学連携・域学連携～ 第12回：コミュニティとSDGs～MDGsからSDGsへ～ 第13回：コミュニティとファシリテーション～ワークショップの技法～ 第14回：事例研究① 第15回：事例研究②、まとめ 最終回：レポート試験</p> <p>* 授業の進行によっては、一部変更することがあります。 * また新型コロナウイルス感染症対策により、オンラインで行う可能性があります。</p>				
11. 試験・評価方法	授業理解度：30点 グループワークなど授業貢献度：10点 最終レポート試験：60点				
12. 別途負担費用					

13. その他特記事項	<p>参考文献：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 佐藤竺監修/今川晃・馬場健編『市民のための地方自治入門（新訂版）』（実務教育出版、2009） 2. 真山達志・今川晃・井口貢『地域力再生と政策学』（ミネルヴァ書房、2010） 3. 今川晃編『地域公共人材をつくる』（法律文化社、2013） 4. 今川晃監修『そろそろ、この街の話をしようじゃないか』（公益財団法人草津市コミュニティ事業団、2014年） 5. 青山公三・小沢修司・杉岡秀紀・藤沢実『もうひとつの「自治体行革」』（京都政策研究センターブックレット vol.2）（公人の友社、2014） 6. 白石克孝・石田徹編『持続可能な地域実現と大学の役割』地域公共人材叢書第3期第1巻（日本評論社、2014） 7. 今川晃編『地方自治を問いなおす』（法律文化社、2014） 8. 杉岡秀紀編著『地域力再生とプロボノ』（京都政策研究センターブックレット vol.3）（公人の友社、2015） 9. 青山公三・小沢修司・杉岡秀紀ほか『地域創生の最前線（京都政策研究センターブックレット vol.4）』（公人の友社、2016） 10. 青山公三・小沢修司・杉岡秀紀ほか『「みんな」でつくる地域の未来（京都政策研究センターブックレット vol.5）』（公人の友社、2017） 11. 原田晃樹・杉岡秀紀『合併しなかった自治体の実際』（公人の友社、2017） 12. 平尾剛之・内田香奈編『NPO 最善戦』（京都新聞出版センター、2018） 13. 村田和代編『これからの話し合いを考えよう』（ひつじ書房、2020） 14. 今川晃・牛山久仁彦編『自治・分権と地域行政』（芦書房、2021） 		
14. 社会人受講	科目等履修生（単位付与）として受け入れ	可	否
	聴講生（単位認定不要）として受け入れ	可	否

※コロナ禍の影響により、対面授業はオンライン（同時・録画・資料）へ変更になる場合があります。